

令和 4 年度 鬼怒中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

確かな学力，豊かな心，健やかな体の調和のとれた「生きる力」をはぐくむ。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

○気力あふれる生徒 ○創造性を伸ばす生徒 ○心の豊かな生徒 ○進んで仕事をする生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

(1) 目指す学校像

- 活力に満ちた明るく，楽しい学校
- 互いを認め合い，思いやりのある学校
- 保護者・地域から信頼される学校

(2) 目指す教師像

- 高い指導力と愛情をもって，生徒と向き合える教職員
- 生徒のよさを認め，伸ばす教職員
- 協調性に富み，責任感のある教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

生徒を中心とした活力に満ちた明るく，楽しい学校づくりを目指し，全教職員が和と協力，熱意人間尊重の精神を基盤に『生きる力』をはぐくむ教育に取り組むとともに，地域と連携・協力し特色ある学校経営を推進する。

- (1) 確かな学力の育成・・・新学習指導要領の求める主体的・対話的で，深い学びとなるように授業の工夫改善に取り組み基礎・基本を確実に習得させることに努める。また，自ら学習する態度の育成を図るため，家庭学習の適切なやり方及び学習時間の確保について指導していく。
- (2) 豊かな心の育成・・・生徒が活躍できる場の設定と異年齢集団活動及びボランティア活動の充実を図り，自信や自己有用感をもち，思いやりの心をもった心豊かな生徒の育成に努める。
- (3) 安全指導の徹底と健康体力の増進・・・登下校の安全の徹底を図るとともに食育及び心身の健康に関する指導の充実を図る。
- (4) 特別支援教育の充実・・・全教職員の共通理解のもと，配慮が必要な生徒に対して組織体制を確立し，連携協力して指導する。
- (5) 小中一貫教育の推進・・・地域学校園の部会組織を活性化し，小中が抱える共通の課題を明確化にして連携しながら解決を図る。また，児童・生徒の交流する機会を検討し実践していく。
- (6) 家庭・地域との連携強化・・・学校教育への理解を深めるため，家庭や地域に情報を積極的に発信するとともに，生徒の地域行事への参加を促す。
- (7) 教職員の健康安全管理と資質の向上・・・校務の効率化を意識し，組織的な対応を図る。また各自が課題を意識し，教育のプロとしての自負と責任をもちコンプライアンスを遵守する。さらには，学びあいの精神で授業力の向上を図る。

[鬼怒地域学校園教育ビジョン]

～自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成～

4 教育課程編成の方針

- (1) 地域や施設設備，教員構成及び生徒の実態，発達段階や特性等を十分に配慮し編成する。
- (2) 基本的な「学び方」の習慣を身に付けさせるため，教科における学習指導はもとより，道徳や特別活動，総合的な学習の時間等で意図的・計画的に指導を行えるように編成する。
- (3) 好ましい人間関係の醸成，基本的なモラルや社会生活上のルールの習得，他者と協力して，よりよい生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育成するため，道徳や特別活動を効果的に展開できるように編成する。
- (4) 他者に対する思いやりの心や，不正を絶対に許さないという心，さらには良いことを進んで行おうとする意欲を，全教育課程で育て，生徒自身の心に「いじめに対する抑止力」を付けさせる。
- (5) 未来に生き，未来の担い手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」や「カリキュラムマネジメント」の実現に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【 学 校 運 営 】 ○教職員が一致団結しての学年・学級経営
- ・情報の積極的な発信
 - ・地域との連携
- 【 学 習 指 導 】 ・授業力の向上
- 学習習慣の確立と学力の向上
- 【 児 童 生 徒 指 導 】 ・指導力の向上 ○生徒の自主的な活動の推進
- ・組織的な対応・素早い対応
 - ・教育相談の充実
- 【健康（体力・保健・食・安全）】 ・運動の励行 ○健康管理と健康の増進
- ・安全な生活

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	<p>A1 生徒は，進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①「ねらいを示す」「振り返りを行う」を授業で徹底して行い，知識の定着を図る。</p> <p>②深い学びにつながるよう，言語活動（発言力・発表力・理解する力）の充実を図る。</p> <p>③生徒が主体的に学習に取り組むような課題の設定や「学び合う活動」を授業に取り入れ生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>④タブレット端末w有効に活用し家庭学習の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が88.7%で数値指標を下回っているが，教職員の肯定的回答は80.0%で数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①学習内容の定着を目指し，問題演習を多く取り入れていく。特に苦手な単元について個別の課題に取り組ませる。</p> <p>②授業で「学び合う活動」ができよう，グループワークや互いの意見を交換し，より深い理解につなげるよう授業を工夫する。</p> <p>③今後も「社会とのつながり」を意識した授業を心がけ，学習内容がどのように活かされているか考える授業に取り組んでいく。</p>

<p>A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①考え、議論する道徳の授業の実践を通して、「思いやりの心」をもって人と接することが普段の学校生活と結びつけられるよう生徒の道徳力を向上させる。</p> <p>②朝の読書活動を行うことで、豊かな感性を育む機会の充実を図る。</p> <p>③地域の清掃やボランティア活動を通して、社会の一員としての自覚と豊かな心の育成を図る。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が 91.0%、教職員の肯定的回答は 80.0%と共に数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①教育活動全体を通じて、他者を思いやる道徳的実践力の向上を図るとともに、道徳科の授業を要として、対話的、体験的な学習活動を通じて、人間愛を育てる。</p> <p>②地域の清掃等のボランティア活動を通して、社会の一員としての自覚と豊かな心の育成を図る。</p> <p>③朝の読書活動では様々なジャンルの本に触れることで、豊かな感性を育む機会の充実を図る。</p>
<p>A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 65%以上 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①生徒がルール作りを行うなどの主体的な活動を通し、自分たちでより良い生活にしようという意識を養う。</p> <p>②委員会活動を活性化し、更なる規範意識の育成や心のマナーの向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が 85.6%、教職員の肯定的回答は 71.4%と共に数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①学校生活をより良くするためのマナーや校則について生徒が主体的に考え、行動する意識を養う。</p> <p>②委員会活動を活性化し、更なる規範意識の育成や心のマナーの向上を図る。</p>
<p>A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 65%以上 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①挨拶にも思いやりの心が表れることを継続的に伝え、自分から明るい挨拶をする態度と他者を思いやる心を養う。</p> <p>②生徒会執行部や生活委員等と協力し、あいさつ運動の充実を図り、その定着をはかる。</p> <p>③大きな声ではっきりと挨拶ができるよう、登下校時や授業・部活動等で継続指導する</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が 92.0%、教職員の肯定的回答は 82.9%と共に数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①挨拶にも思いやりの心が表れることを継続的に伝え、自分から明るい挨拶をする態度と他者を思いやる心を養う。</p> <p>②生徒会執行部や生活委員等と協力し、あいさつ運動の充実を図り、その定着をはかる。</p> <p>③相手に伝わるような時と場に応じた挨拶ができるよう、登下校時や授業・部活動等で継続指導する。</p>
<p>A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 75%以上 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①学校行事や部活動等において、目標をもたせ、その達成に向けてあきらめずに努力する力を育てる。</p> <p>②キャリアパスポートを活用した授業を実践する。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が 82.7%、教職員の肯定的回答は 71.4%と数値指標を共に下回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①学校生活の中で、目標達成を意識できる取組を実践し、認め励ます支援を行う。</p> <p>②キャリア教育、キャリアパスポートの教職員への周知を積極的に行う。</p>

<p>A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①感染症予防対策の新しい生活習慣を徹底させ、バランスの良い食事や適度な睡眠時間を確保し、自身の健康の向上の意識を高める。</p> <p>②マスク着用・手洗い・うがいの徹底のために保健だよりや掲示物、委員会との連携を図る。</p> <p>③「交通安全教室」「薬物乱用防止教室」「避難訓練」を実施するとともに、教科横断的な視点を持って他の教科指導と関連づけて指導する。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が 93.6%、教職員の肯定的回答は 82.9%と共に数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①生徒に健康や安全に気を付けて生活することとはどういうことかを他の教科指導と関連付けて指導する。 ②睡眠時間を確保するために、スマホやゲームの使用の仕方について、家庭と連携を図って指導する。 ③交通ルールの指導を徹底する。</p>
<p>A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 75%以上 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①「職業について学ぶ」(1年)、「社会体験学習」(2年)、「自己の生き方について考える」(3年)を通して、自己のキャリア形成に必要な能力や態度の育成を図る。</p> <p>②あいさつ運動、ボランティア活動等に積極的に参加し、社会の一員である自覚を促すとともに、社会貢献の態度と育成を図る。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が 82.7%、教職員の肯定的回答は 71.4%と数値指標を共に下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①「職業について学ぶ」(1年)、「社会体験学習」(2年)、「自己の生き方について考える」(3年)を通して、自己のキャリア形成に必要な能力や態度の育成を図る。 ②本校の特色ある学校活動の一つである「ピカピカクリーン大会」について、その歴史や地域への貢献について、生徒に理解させ、活動への意欲・関心を高め、社会貢献の態度と育成を図る。</p>
<p>A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①英語の授業で、ウォームアップの際に既習の英語を用いた生徒同士のコミュニケーションを行う。</p> <p>②英語の授業の中で、英語のみを使ったやりとりの活動を取り入れる。</p> <p>③新出単語や表現の学習の際に、英語を発話する機会を作る。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が 80.7%と数値指標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①ALT を積極的に活用し、インタビューやブレゼンテーションなどを行っていく。 ②生徒が英語を使用する場面や状況、目的についても適切に設定し、英語を発話する機会を作る。</p>
<p>A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①宇都宮の歴史や風土・産業・文化財などについて、社会科や総合的な学習の時間(宇都宮学)において調査・研究を行い、宇都宮の良さに気づき、その良さを共有する。</p> <p>②「鬼怒中学校地域協議会」との連携を図り、学区内(御幸地区・御幸ヶ原地区・平石地区)の歴史や良さについて学ぶ機会を設ける。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が 79.4%であり、数値指標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①総合的な学習の時間(宇都宮学)において、宇都宮の歴史や風土・産業・文化財について副読本やタブレットを使用して調査・研究を行い、宇都宮の良さを認識させる。 ②「鬼怒中学校地域協議会」との連携を図り、学区内(御幸地区・御幸ヶ原地区・平石地区)の歴史や良さについて学ぶ機会を設ける。</p>

	<p>A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 70%以上</p>	<p>①調べ学習や発表する場面等で、積極的にICT機器を活用していく。 ②教科・領域ごとの学校図書館活用計画の下、学習に役立つ図書を生徒・教員に積極的に紹介する。 ③生徒一人1台のパソコンを授業で使えるよう教職員のICT活用研修を行う。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が78.4%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①google classroomやgoogle formを活用していくとともに情報モラルを高めていけるように指導していく。 ②各教科の年間指導計画をもとに、授業の中で学習の深まりが期待できる図書の活用を提案する。教科担任と連携を図り、学習に有用な図書の購入や、生徒の目につきやすい配架の工夫を行う。</p>
	<p>A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわり的心をもっている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①地区内の行事へ積極的な参加を促し、高齢者との交流を深めさせる。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が91.0%、教職員の肯定的回答は80.0%と共に数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①地区内の行事へ積極的な参加を促し、高齢者との交流の場をつくり、高齢者に対するいたわり的心を深めさせる。 ②日頃の会話や挨拶を大切に、スタンダードダイアリーや授業、長期休業前後の計画や振り返り等においても高齢者に対する感謝を持てるような温かい言葉を示していく。</p>
	<p>A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 70%以上</p>	<p>①教科横断的授業の実践、総合的な学習の時間、委員会活動などの教育活動に「持続可能な開発目標(SDGs)」を関連づけ、「持続可能な社会」への関心を高める。 ②環境問題・自然災害・事故等を取りあげ、身の回りに起こっている出来事に関心を持たせる。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が69.3%と数値指標を下回っている。 【次年度の方針】 ①教科横断的授業の実践、総合的な学習の時間、また生徒会活動を中心とした委員会活動などの教育活動に「持続可能な開発目標(SDGs)」を関連づけ、「持続可能な社会」への関心を高める。 ②各教科の授業、学校行事などで環境問題・自然災害・事故等を取り上げ、身の回りに起こっている出来事に関心を持たせる。</p>
<p>目指す学校</p>	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>①校内支援委員会において、計画的に生徒を見ていく。また、支援が必要な生徒については個別の支援計画を作成し具体的な支援を共有し実践していく。 ②教育相談の研修を通してカウンセリング技術の習得に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①学年会や教育相談部会の中で、支援が必要な生徒について検討する。 ②担任は個別の支援計画を作成し具体的な支援を共有し実践していく。 ③教室での具体的な支援の方法や具体的な教材、教具について研修する機会をもつ。</p>

<p>の 姿</p>	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 95%以上 生徒の肯定的回答 95%以上 保護者の肯定的回答 75%以上</p>	<p>①学校全体で年間を通していじめは許されないという強い気持ちを育てていく。 ②いじめゼロ集会、いじめアンケート、教育相談、道徳の授業の場面でも効果的に指導していく。 ③学校の取組を積極的に保護者や地域へ情報発信する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が92.8%、教職員の肯定的回答は91.4%で共に数値指標を下回っているが、保護者の肯定的回答は81.2%で数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①学校全体で年間を通していじめは許されないという強い気持ちを育てていく。 ②いじめゼロ集会、いじめアンケート、教育相談、道徳の授業の場面でも効果的に指導していく。 ③学校の取組を積極的に保護者や地域へ情報発信する</p>
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 95%以上 保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①日常の変化を見逃さず、家庭との連絡を密にし、問題発生を防ぐとともに、初期対応が迅速に行える体制を整える。 ②不登校対策の取組として1人1台パソコンの活用を検討する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答が88.6%と数値指標を下回っているが、保護者の肯定的回答は88.7%と数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①担任だけで悩まず、変化があったら学年に報告相談する。1日休んだら電話連絡、2日休んだら家庭訪問、3日休んだら小ケース会議を行う。 ②Google Classroomやmeetを使った活用の検討をする。</p>
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>①教職員で日本語指導の支援が必要な生徒を面談等で適切に見極め、保護者や関係機関と連携して個人に合った支援を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%と数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①日本語指導の支援が必要な該当生徒及び保護者を、面談等を通して確実に把握し、派遣される日本語指導講師や関係機関を含めた指導体制を、個に応じて適切に構築する。</p>
	<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①生徒の自主性を尊重しながら、企画運営を任せる活動を設定する。 ②生徒の実態に即した学校行事の位置づけを行い、生徒が自発的に活動できるような工夫を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が87.1%と数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①各委員会との連携を図りながら、生徒が自主性をもって生徒会活動に取り組むことができるよう、工夫を行う。 ②学校行事等の企画運営に生徒の意見を取り入れ、学校全体で学校行事に臨むことができるよう、生徒の活動の場の設定をするなど、自発的な活動の活性化を図る。</p>

<p>A 18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①一斉指導の中の個別指導を念頭に、設問や机間指導の際に、個に応じた配慮を行う。</p> <p>②一人一授業を全職員で実施し、参観レポートを作成するなど校内で相互研修を行うことにより、個々の授業力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が 89.4%と数値指標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①今後も個に応じた指導を心がけ、授業では目標をいくつか設定し、自分に合った目標課題に取り組めるよう指導・支援していきたい。</p> <p>②研究授業を取り入れることで、指導方法の充実を図るとともに、評価方法など研修を適宜取り入れていきたい。また、教員の指導力向上を図る。</p>
<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①校務運営規程をもとに職務・業務内容について理解を深めるとともに、教職員が相互に連携して業務に当たる。</p> <p>②校内だけでなく関係機関と協働して生徒の健全育成に努める</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 88.6%と数値指標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①教職員の経験年数等を考慮して校務分掌を割り振る。</p> <p>②校務運営委員会や職員会議・学年主任会議や学年会議を通して全教職員の共通理解を図る。</p> <p>③校内だけでなくPTA・地域協議会、他の関係機関と協働して生徒の健全育成に努める。</p>
<p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 70%以上</p>	<p>①各自の勤務時間を意識させるとともに、会議の分散・会議時間の短縮を心掛ける。</p> <p>②普段からOJTを活用し仕事の効率化を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 60.0%と数値指標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①教員に負担とならないよう教育課程を編成する。</p> <p>②ミライムの出退勤管理を利用し各自の勤務時間を意識させる。</p> <p>③会議が重ならないようにし、効率の良い会議を心掛ける。</p>
<p>A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上 保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①地域学校園として小学校と連携を図り、9年間の発達段階に応じたキャリア教育、学習指導、生徒指導の計画を修正・改善する。</p> <p>②学力向上、不登校対策、特別支援教育の充実に向けた連携、協働を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答が 82.9%と数値指標を上回っているが、保護者の肯定的回答は 77.1%と数値指標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①小学校と連携を図り、学力向上部会、生活支援部会、健康安全部会、交流調整部会の取組について検討し、計画的に実施する。</p> <p>②学力向上、不登校対策、健康安全の充実に向けた連携、協働を図る。</p>

<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 地域住民の肯定的回答 80%以上 保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①地域コーディネーターと連携し、魅力ある学校づくり地域協議会の有効活用を推進する</p> <p>②地域に目を向けた教育活動を通して、生徒の郷土愛を育てる。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答が100%、保護者の肯定的回答は82.9%と数値指標を共に上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①今後も地域コーディネーターと連携し、魅力ある学校づくり地域協議会の有効活用を推進する。 ②地域に目を向けた教育活動や地区内のお祭りなどへのボランティア活動を通して、生徒の郷土への思いや郷土愛を育てる。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 地域住民の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①地域コーディネーターと連携し宮っ子チャレンジウィーク、社会人先生に聞く、幼稚園実習等で、地域の教育力を活用する。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答が100%で数値指標を上回っているが、保護者の肯定的回答は82.9%で数値指標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①地域コーディネーターと連携し宮っ子チャレンジウィーク、社会人先生に聞く、幼稚園実習等で、地域の教育力を活用する。 ②「鬼怒中学校地域協議会」と連携し、地域や企業と関わり合った様子を「鬼怒だより」「学年だより」「学級だより」やHP等で積極的に情報発信していく。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 地域住民の肯定的回答 90%以上 保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①安全点検や施設利用者から環境改善情報を収集し、学校業務嘱託員や機動班と連携を図り、速やかな処置・対応を行う。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答が100%、保護者の肯定的回答は91.0%と数値指標を共に上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①安全点検や施設利用者から環境改善情報を収集し、学校業務嘱託員や機動班と連携を図り、速やかな処置・対応を継続して行う。</p>
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 70%以上</p>	<p>①GIGA スクール構想で届くパソコンを授業で使えるよう準備する。</p> <p>②各教科・領域の中で、図書の活用によって学習効果が向上する単元を調べ、適切な図書資料の購入に努める。必要に応じて公立図書館と連携し豊富な図書資料を準備する。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が78.4%と数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①ICT機器の安全な取り扱いについて共通理解を図っていく。 ②各教科の授業の中でICT機器や図書を積極的に活用できる取組を進めていく。必要に応じて公立図書館と連携し豊富な図書資料等を準備する。</p>

本校の特色・課題等	<p>B1 生徒は、登下校の際、交通ルールやマナーを守っている。</p> <p>【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%以上 地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 1学期は新入生の交通事故や自損のけがが多く、大きい自転車に慣れない生徒が多いと考えられる。そのため、新入生を対象とした、自転車の乗り方や交通マナーについて学ぶ交通安全教室を4月頃に企画する。</p> <p>② 危険箇所については、通学路の整備・見直しを実施し、保護者・地域からも行政に働きかけてもらう。</p> <p>③ PTAによる「愛の一声運動」の実施。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答が100%と数値指標は上回っているが、保護者の肯定的回答は78.7%と数値指標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ① 新入生を対象とした鬼怒中独自の自転車講習会の実施。その他に、年度初め交通安全教室、スクエアストレイト方式の交通安全教室を実施する。 ② 通学路の整備・見直しを実施し、保護者・地域からも行政に働きかけてもらう。 ③ PTAと教員による登校と下校の「愛の一声運動」の実施。</p>
	<p>B2 生徒は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 話す・聞く・考えるといった学ぶ力や学習に取り組む態度を育てる。また、どのような生徒も落ち着いて授業ができるような教室の学習環境を整える。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が78.4%と数値指標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ① 話す・聞く・考えるといった学ぶ力や学習に取り組む態度を育てる。また、どのような生徒も落ち着いて授業ができるような教室の学習環境を整える。 ② 疑問点を積極的に教師や友人に質問し、解決する学習への姿勢を養う。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 27の質問項目で15項目が指標を上回った。 ・ A17「学校は、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。」は市全体の平均値を上回っている。これは本校の特徴・長所であるので、継続できるように努力していく。 ・ 学習面に関することでは、ほとんどの項目で生徒、教職員の肯定的回答が指標を上回っているが、市全体の平均値より下回っている。本校の課題である学力向上に向けて、ICT等を活用したわかる授業への取り組みを向上させ、学習習慣の定着、家庭での学習環境の改善を目指している。そのためには、さらなる充実を図れるような研究、授業の工夫、家庭への協力の呼びかけ等行う必要がある。また、学習習慣の定着には、家庭との連携はもちろんのこと、小学校との緊密な連携が大切であるので、情報交換をまめに行い、改善策を模索していきたい。 ・ A24「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」の地域住民と保護者の肯定的回答は数値指標を上回っている。本校は交通安全面において、学校周辺に危険な箇所があるため、教職員による毎朝の登校指導や「愛の一声運動」と呼ばれる保護者による毎日の下校指導を行っている。この粘り強い取り組みにより、登下校中の自転車を運転する生徒の意識が高まってきてはいるが、B1「生徒は、登下校の際、交通ルールを守っている。」の生徒や保護者の肯定的回答が7割にとどまっている。今後もさらに、交通法規の遵守を改めて生徒に理解できるよう指導し、交通マナーの遵守や心のマナーの向上に努めていく。 ・ 新型コロナウイルス感染症予防対策が3年目に入り、工夫を凝らしながら、学校行事、保護者会、授業参観等を行った。以前のように全面的に中止ではなく、縮小しながらも実行できる活動が増えたが、保護者から「コロナに対する対策の緩和をしてほしい。」という意見も多く聞かれた。今後、新型コロナウイルス感染症が第5類になり、コロナ前の状態に戻る可能性があるが、この3年間で培った経験や知恵を生かし、学校行事等の運営に当たっていききたい。
--

- 小中一貫教育・地域学校園に関する項目については、教職員の肯定的回答は数値指標を上回っているが、保護者の肯定的回答は下回っており、生徒の肯定的回答も約50%と低い数値である。乗り入れ授業やあいさつ運動、小学校6年生の中学校訪問など交流の場も多く、小中学校の教職員同士の情報交換も緊密に行われているので、コロナ後の肯定的回答に期待する。また、学校園での共通の課題である学力の向上に向けて、生徒の実態に合わせて効果的な取り組みができるよう工夫・研究を継続していく。

7 学校関係者評価

- ・ コロナ禍の困難な状況の中で、校長を中心に職員一同力を合わせて努力されていることに対し、地域住民の一人として、心から感謝しております。
- ・ 今年度も新型コロナウイルス感染症防止のため、生徒の様子を見に行く機会が減って残念だったが、体育祭は縮小されながらも、全校生徒で行うことができ良かった。
- ・ 授業参観をしたが、生徒は落ち着いており、学習にも熱心に取り組んでいる。空席が多かったのが気になった。
- ・ コロナ禍で行事などの制約が多い中、生徒たちのことを考え行動してくださった先生方に感謝致します。
- ・ 今年度も地区内行事のボランティア活動の多くが中止になってしまったが、御幸地区文化祭では、準備・かたづけに30名を超える中学生が参加してくれて、本当に助かった。
- ・ ピカピカクリーン大会は実施できて、保護者や地域協議会の方々が多数参加して地域との交流ができた良かった。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 本校が重点目標としている、学力向上、家庭学習の習慣化に関しては、少しずつであるが成果が現れている。しかし、まだまだ学習意欲が低く、低学力の生徒も多い。家庭への働き掛けも常に行ってはいるが、小学校との緊密な連携が大切である。学習習慣の定着に向けて、小中学校で情報交換をまめに行い、改善を図っていきたい。
 - ・ タブレットを効果的に使い視覚的に理解したり、小グループでの話し合い活動でタブレットを使用したりすることで深い学びにつながってきているが、紙に字を書くなど、既存の学習形態も見直されつつある。新学習指導要領の「主体的で対話的な深い学び」の授業が展開できるよう、さらに教職員の研修・研鑽を行い、主体的に学習に取り組む態度の育成を図ることが必要である。
 - ・ 自己肯定感や自己有用感を高めるために、生徒と教職員のよりよい人間関係を醸成するとともに、教育相談活動を充実させ、安全で安心な学校作りを目指し、不登校生徒が減少できるようにする。そのために、学級担任だけではなく教職員全員がメンタルサポーターやスクールカウンセラー、適応教室担当教員との連携を強化したり、市教育センターなど外部関係諸機関との関係を深めたりするなど、チーム鬼怒で対応していく。
 - ・ 教職員による毎朝の登校指導や「愛の一声運動」と呼ばれる保護者による毎日の下校指導を継続し、地域協議会会員など地域の方にもお手伝いをいただき、生徒を見守っていききたい。
 - ・ 外国人生徒や特別な支援を必要とする生徒に対して、関係諸機関と綿密な連携を図りながら、きめ細やかな支援をしていく。
 - ・ 地域の美化・緑化活動においては、学校・保護者・地域が一体となり推進していく。特に次年度から、地域協議会や保護者と協力しながら、全校生徒が関わり、フラワーロードにあじさいの植樹を行う。そして、フラワーロードが本校と地域のシンボルとなるよう整備していききたい。
- 「小中一貫教育・地域学校園」に関する項目では、活動状況が見にくいいため生徒の評価が低い。生徒の学習面や生活面に反映できる一貫教育の取組を小中で連携し、9年間を見据えた指導内容や児童生徒活動を行い、鬼怒地域学校園の教育ビジョンである「自分でよく考え、未来に向かって、たくましく生きる生徒の育成」が実現できるようにしていく。

